

# 芸術新潮

Geijutsu Shincho

March 2020

3

# 美人画

特集

*past and present*

江口寿史

対談

池永康晟

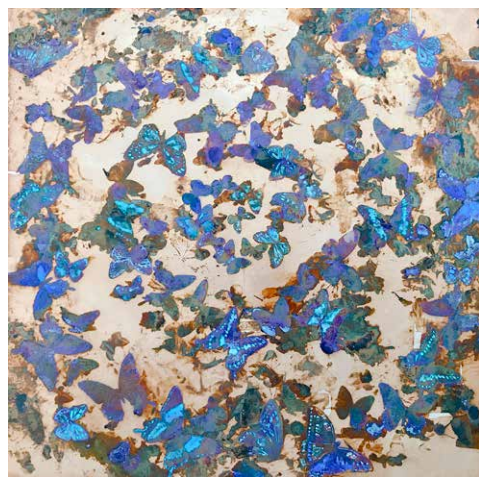
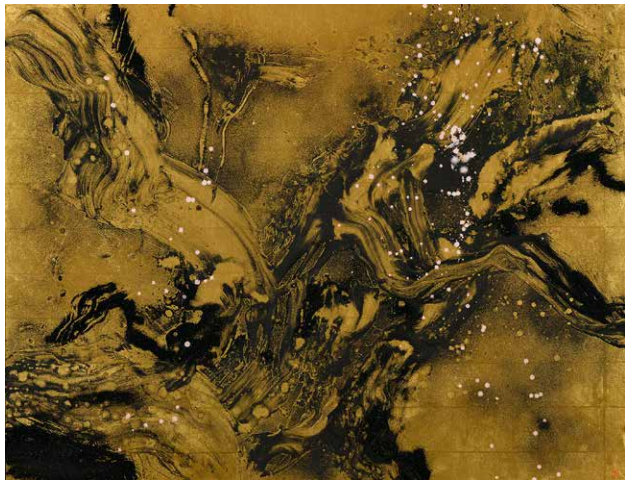
HISASHI EGUCHI

YASUNARI IKENAGA

# ギャラリーためなが

galerie taménaga

## 開廊から51年、 老舗ギャラリーが推す 注目すべき人気作家4人



上／菅原健彦《春開花》2019年  
岩絵具・金箔、和紙 112×146cm  
下／吉川民仁《花筏》2019年  
油彩、カンヴァス 91×117cm

上／大竹寛子《Spiral blue butterflies》  
2020年 岩絵具・箔、紙 100×100cm  
下／江川直也《冬三日月》2019年  
岩絵具・箔、和紙 73×80cm

### 昨

年に開廊50周年を迎え、いままた新たに次の半世紀に向けてスタートを切った老舗画廊のギャラリーためなが。アートフェア東京でも画廊の常連として欠かすことのできない存在となっている同ギャラリーが今回展示するのは、人気の高い日本人画家4人の作品である。

前回に続き、出品作家に名を連ねているのは、菅原健彦（1962年生れ）と吉川民仁（1965年生れ）の2人だ。菅原の今回の出品作は、彼の代表的なテーマのひとつとなっている福島県三春の樹齢千年を超える桜の名木を題材に、圧倒的な迫力の構図で魅せる力作絵の中で、お馴染みの金と黒で描かれた樹木から、ピンクの花びらがひらひ

らと舞い散る「左上」。もう一方の吉川は、昨年と同じく抽象的な色面で構成された、彼ならではの繊細で透明感に溢れる作品を出品。春色に染まった画面は、題名の通り、まさに陽光を浴びながら水面をたゆたう「花筏」である「右下」。そんなベテラン2人に対して、アートフェア東京初出品となるのが、日本画家の大竹寛子（1980年生れ）と江川直也（1988年生れ）。大竹は、伝統的な技法を基本におきながら、モチーフとなっている蝶や花を構図の中で大胆に踊らせて、あたかも脳内で夢想した精神世界を再現したかのような斬新な表現を日本画で試みている「右上」。

4人の中では最年少となる江川が描いたのは、月色に染まった冬の夜景である。水墨画のように極力色を排除することによって、崇高な自然の神々しさと美しさが際立った「右下」。

ことほどさように、獨創性あふれる作品が並ぶ同ギャラリーの会場は今回も必見。老舗ならではの安定感のあるラインナップに、大いに期待したい。

### information

住所●東京都中央区銀座7-5-4  
電話●03-3573-5368  
開廊時間●10:00～19:00  
(日・祝日は11:00～17:00)  
休廊日●無休  
アクセス●東京メトロ「銀座」駅より徒歩5分  
URL●tamenaga.com